saveMLAKプロジェクト 2012/07/10発行

saveMLAK ニュースレター

第6号

女川つながる図書館でのブッカー作業

2012年6月2日から3日に女川つながる図書館で行われたブッカー作業に参加した。

女川までは、仙台駅から電車を乗り継ぎまずは石巻駅へ、そこからレンタカーで30分弱というところ。女川町勤労青少年センターの2階に女川つながる図書館はある 。

作業内容は、女川つながる図書館の蔵書にただひたすらブッカーをかける、というのも。

参加者は、女川つながる図書館の職員、宮城県図書館職員、宮城県内図書館職員、日本ブッカー職員、saveMLAKからの派遣、というものである。日本ブッカー の職員の方たちは、日本図書館協会のHelp-Toshokanからの派遣だそうだ。

まずは、日本ブッカーの方たちから、プロのブッカーかけの技を教わった。ブッカーをかけるというのは、各図書館で日常的に行われており、先輩から後輩へ口伝のよ うな形で伝授されているので、正式な作業の仕方を習う機会はめったにない。8年で5館渡り歩いていろいろなやり方を見てきたつもりだけど、それでも、知らなかっ た技とコツが。それを知ることで、微妙に手こずっていた部分があっさりと作業できるとか。でも、ごめんなさい、うっかり癖というものは出るのです。

プロの技を伝授された後は、女川の方たち以外は、ひたすらブッカーかけに。

女川つながる図書館の方たちは、この講習が終わった後にも、自分たちで今後作業を進めていけるように、本に合わせてブッカーを切るところから、失敗したときの直 し方まで、ブッカー作業の一通りを徹底的に教えられていた。これが今回の目的の1つででもあるからだ。

女川の方たちとは別室で、その他の参加者は、チーム黙々を結成。ただ黙々とブッカーかけにいそしんだ。

初日の県内図書館からの参加者は、南三陸町図書館の方たち。私は1か月前にこの図書館のお引越しの手伝いに行っていたため、1か月ぶりの感動の再会、かと思ったら、別件でその前の週に会っていたので、1週間ぶりの再会でした。

2日目は、女川の方たちは、メンバーを入れ替えて、引き続き、講習。そのほかの人たちも引き続き、黙々とブッカーかけ。この日の県内図書館からの参加者は、岩沼 市立図書館の方。

2日間、みんなで黙々とブッカーをかけた成果は、約500冊。まだまだ全蔵書の一部でしかないため、引き続きの作業が必要だが、今回はこれにて終了。

ブッカーかけという単純作業のための人手という形での参加ではあるが、普段自己流で済ましているブッカーかけという作業でのプロの技とコツを教えてもらったり、 ほかの図書館の方たちと交流ができたり、ほかの図書館の蔵書をじっくりと眺めることができたり、と普段自分の館で仕事をしているだけではなかなかすることのない 経験ができたので、自分の学びにもなった。ただの作業ボランティアというよりは、自分のためにもなる、これが一番なのではないだろうか。

帰りは、仙台まで車で帰るという、宮城県図書館の熊谷さんの車に一緒に乗せていただき、沿岸部を走りながら、図書館や町の様子などのお話を伺った。これもまた、 写真やツアーでも、自分で現地を見て歩くだけでも、わからないリアルな状況への認識をあらためて。いつもながらありがとうございます。

余談ではあるが、帰り道に通りかかった松島の町の様子が、昔（たぶん20年くらい前？）の家族旅行の記憶の面影を残していて、残っているということに、思いがけず感動！

【嶋田綾子】

saveMLAK報告会2012 〜社会教育・文化施設の救援・復興支援〜 のご報告

saveMLAKは、東日本大震災で大きな被害を受けた博物館・美術館(M)、図書館(L)、公文館(A)、公民館(K)などの社会教育・文化施設の救済・復興支援活動を行う有志の集まりで、活動から1年経過したことを期に報告会を開催をいたしました。7月1日（日）に、東京・大阪各会場及びインターネット配信にて今までの活動報告、今後の活動について報告させていただきました。

会場までご来場して頂いた方々、インターネット上で視聴して頂いた方々、及び開催に向けてご協力して頂いた方々にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。この場では、報告会の際に頂いた鈴木 寛氏（参議院議員・元文部科学副大臣）のメッセージ全文と写真を掲載しました。

【冨澤 美典】

みなさん、こんにちは。参議院議員の鈴木寛（すずきかん）です。 本日は被災地の社会教育・文化施設の救援・支援活動を行ってこられたsaveMLAK（セーブ・ムラック）の活動報告会2012が東京・大阪２会場で開催されますことに、まず心よりお祝い申し上げます。本来であれば会場にて直接ご挨拶したかったのですが、日程の都合で文章による激励のメッセージをお送りすることとなりました。何卒ご容赦下さい。

saveMLAKは昨年３月１１日の東日本大震災が発生した直後に発足し、被災した図書館、博物館・美術館、文書館、そして公民館に関する情報を精力的に収集し、ウィキとグーグル・マップを使って誰でもウェブ上で被害情報が見られるようにされました。また、被災地の支援ニーズを的確に把握し、現地が本当に必要としている支援が届くように支援者と受援者を仲介し、時には自らも動いて社会教育・文化施設の復興に大きな役割を果たされました。 私もsaveMLAKのサイトやニュースレターを拝見しましたが、南三陸町の仮設図書館の開館、名取市のこども図書室の建設・開館、あるいは石巻市内の学校図書館の図書整理など、様々なプロジェクトに対する精力的な支援活動に感銘を受けました。

もとより、社会教育・文化施設の被害状況把握や被災した施設の復旧・復興は、まずは国や自治体が主体的に取り組むべきものであります。しかし、このたびの未曾有の大震災は、自治体の行政機能にも大きな損害をもたらしました。そのような状況の下で、saveMLAKのみなさんが専門分野や立場を超えて、文字通り有志の集まりとして、国や自治体という「官」で対応しきれない部分を補完してこられたことは、非常に大きな意義があると感じております。

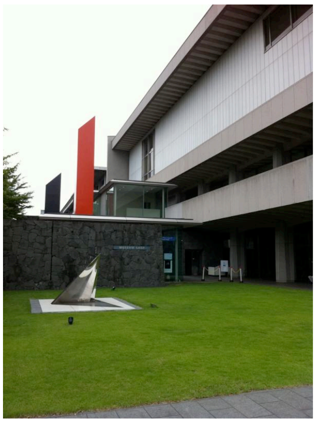
私は以前より「新しい公共」の実現を唱え、その推進に尽力してきました。私たちが社会で生きていく上で遭遇する様々な課題に対して、これまでのように何でも官に助けてもらおうという「公助」でもなく、かと言って何でも自分で解決しなければならないとする「自助」でもなく、官民が共にそれぞれの役割を果たしながら連携協力する「共助」の精神をもって、公共的な財・サービスの提供を官だけでなく、市民、ＮＰＯ、企業なども積極的に担っていこうという考え方です。saveMLAKの活動は、正にこの「新しい公共」の実践に他ならないと考えます。

また、私は最近社会創発塾を立ち上げました。社会創発とは、日本を元気にし、世界から尊敬と注目を集め、全ての人が健康で文化的な生活をおくるために何が必要かを熟議し、活気と誇りに満ちた社会のプロデュースを推進し、それを担うために具体的なデザインと活動を実践するということです。saveMLAKの活動は、社会創発という発想から見ても、その先駆的な取組に違いないと感じております。

本日の活動報告会が、saveMLAKに関わる全ての方々にとって実り多いものになることを祈念するとともに、みなさまの今後の活動が被災地における社会教育・文化施設の１日も早い復興、ひいては被災された全ての方々が安全、健康で文化的な生活を回復するための一助となることを大いに期待し、簡単ですが激励のメッセージとさせていただきます。

２０１２年７月１日

参議院議員・元文部科学副大臣　鈴木　寛



東京会場である
東京国立近代美術館
（竹橋）
の外観です

こちらは大阪会場の
エル・おおさか
（大阪府立労働センター）
の様子です

石巻市で活動している「プロジェクト結」コンソーシアムから、仮設団地のお母様達が作ったムラック君グッズも登場しました。マスコットキャラクターでもあるムラック君もたくさんお目見えしました。

saveMLAK統計 2012年6月現在

MLアカウント数	298（+1）
総ユニーク Wiki 編集者アカウント数	324（+2）
Wiki 編集回数の総計	121,791（+6,046）
総 Wiki ページ数	27,658（+127）
総 Wiki 施設ページ数	22,473（+16）

6月のsaveMLAKウィキ！

◆6月の編集者の方々（期間：2012/06/03 (Sun) - 2012/06/30 (Sat)
（順不同、IP アドレス・bot・SPAM による編集除く）

総編集回数：565回

1回	Itono, Lib110ka, OpenIDユーザー3, Stkyoshima, Ta niiyan, Waterperiod, 細川@開拓の村
2回	Soda235
3回	Lomolib, Tzhaya
4回	Librarius I
6回	Artemismarch, Kitaokatamako, Museumya
7回	かみよ
8回	Baronagon, Minoritomizawa
10回	梶谷
25回	Arg
37回	土屋 慶丞
63回	Yegusa
74回	Masao
77回	T.kawakami
219回	Llibrary

【川上 努】

saveMLAK会計 2012年6月期収支

6月末現在

<収入>

グッズ売上	21,195	AD学会
受取寄付金	10,700	個人2件
計	31,895	

<**支出**>

旅費交通費	7,470	女川つながる図書館支援
旅費交通費	12,590	南三陸町支援
広告費	30,500	7/1報告会会場費
消耗品費	18,900	大阪会議用備品マイク他
支払手数料	945	振込手数料
過年度法人税等	185,700	2011年度法人税等※
計	256,105	

※ saveMLAKは任意団体ですが、グッズの販売など収益事業がある為、法人税の申告を行い、法人税・事業税・県市民税を支払いました。

6月末現在　預金残高

1,695,599（前月比−224,210）

【ファンド係：赤塚 昌俊】

6月の出来事と今後の予定

2012年6月2日〜3日
　宮城県・女川つながる図書館でのブッカー作業
　（プロボノ派遣仲介1名）

2012年6月7日
　第16回saveMLAK MeetUp実施
　東京、横浜、大阪、福岡拠点を繋いで実施

2012年6月12日
　2012年度人工知能学会全国大会（第26回）
　岡本・大向　登壇　（於：山口県山口市）

2012年6月26日
　（外部イベント）復興ツナガリ in 横浜・関内
　江草 「博物館・美術館、図書館、文書館、公民館を支援するsaveMLAK」と題してライトニングトーク実施

2012年6月29日
　プレスリリース発行
　「saveMLAK報告会2012〜社会教育・文化施設・復興支援〜」開催のお知らせ

2012年7月1日
　主催イベント開催
　saveMLAK報告会2012
　〜社会教育・文化施設・復興支援〜
　（於：東京 東京国立近代美術館、
　　大阪 エル・おおさか）

2012年8月2日〜4日
　学校図書館問題研究会（学図研）2012年（第28回）全国大会
　分科会に横山　登壇予定　（於：福島県）

編集後記

　今回は、報告会を中心に取り上げました。saveMLAKが活動して1年経過しましたが、復興への道のりはまだ遠いと改めて再認識させられる会だったと思います。

　担当は、インターネット上で報告会を見ながら、ツイッターで適宜、意見等を取り上げていました。 http://togetter.com/li/330326 にて公開しているので、併せて拝見して頂けると幸いです。

ちなみに、最終ページのムラック君はデザイナーの渡辺ゆきの氏が手がけたものです。saveMLAKともども、今後ともよろしくお願いします。

【今号編集担当：冨澤 美典】

編集発行: saveMLAK プロジェクト
発行日: 2012 年 7 月 10 日 (第 6 号)
発行所: 神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 2F
さくら Works <関内>
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail: pr@savemlak.jp
URL: http://savemlak.jp/